

# 血管ドックを開始しました！

～動脈硬化性心血管疾患スクリーニングのための血管機能検査～

健康診断部部长 宮田 健二

福岡県の定期健康診断受診者の有所見率は、平成19年に50 %を超え、以後も増加の一步をたどっています。なかでも、心血管疾患の危険因子である血圧 (13.4 %) ・脂質異常 (32.4 %) ・高血糖 (11.1 %) が上位を占めています。厚生労働省作業関連疾患総合対策研究班の調査で、肥満・高血圧・脂質異常・高血糖のうち1つを有する場合、10年間の心血管系イベントの発症率は5.1倍、3つ以上有する場合は、31.3倍と報告されました。現代の common disease となりつつある‘生活習慣病’において、人間ドックにおける心血管疾患発症のリスク評価とその後の一次予防は非常に重要です。



過食・飲み過ぎ・運動不足・寝不足・ストレスを引き金とし、遺伝的素因・環境因子が修飾して全身の動脈硬化が進行し、心血管イベント・血液透析・失明・下肢切断・脳血管性認知症などを発症する“メタボリックドミノ”

当健康管理センターでは、今年度より血管ドックを開始しました。脈波血圧測定検査（図1）と頸動脈エコー検査により血管障害を評価することを目的としています。

図1

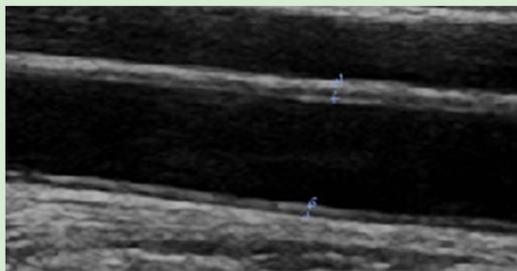


脈波血圧測定検査では動脈の‘詰まり具合stenosis’=上腕足関節血圧比(ABI)と‘硬さstiffness’=心臓足首血管指数(CAVI)が同時に測定できます。ABIにより末梢動脈閉塞性疾患(PAD)が診断できます。重症のPADの予後は、乳がんや大腸がん以上であり、早期発見・早期治療が重要な疾患です。下肢跛行がなくても糖尿病や狭心症、脳卒中患者や高リスク群においては、定期検査が推奨されています。これは、日本人5000人以上を含む世界44ヶ国67000人規模のREACH

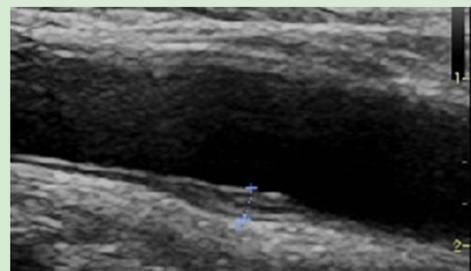
( [持続的な健康のためのアテローム性血栓症の軽減] ) Registry: JAMA, 2006の報告にあるように、単一の動脈硬化症ではなく、冠動脈、脳血管、末梢動脈を含む複数の動脈硬化血管疾患が合併する(polyvascular disease)からです。

また、近年動脈のstiffness (CAVIや上腕動脈-足関節動脈脈波伝播速度(ba-PWV))と様々な疾患との関連が報告されています。虚血性心疾患や脳梗塞はもちろん、高血圧、糖尿病、脂質異常、慢性腎臓病や睡眠時無呼吸症候群との関連性も指摘されています。健診による一次予防の他、上記疾患の管理や二次予防のため、日常診療にも有用です。

頸動脈エコー検査では、動脈硬化の形態的評価を行います。内膜中膜複合厚(IMT)やプラークが、動脈硬化性心疾患発症と関連することが多数報告されています。注目すべき点は、体表から浅い部位を走行するため精度よく測定することが可能であり、健診者の経年的自己管理や二次受診の動悸付けに非常に有用と考えられます(図2)。当院の実地臨床で心臓、腹部、血管等検査を行っている、学会認定の複数の超音波認定技師が検査を担当しているため、信頼性についても確保・維持されています。



正常IMT



プラーク形成あり

図2

職員やそのご家族への定期利用をお勧め下さい。スタッフ一同、心よりお待ちしております。

健康診断部部长 宮田 健二

